

お母さんへの気持ち

静岡県 島田市立六合東小学校 五年

杉森 愛亜

私のお母さんは、いつもベッドでゴロゴロしてんでいます。そんなお母さんを見て私が思う事は、『ぐうたらして、だらしないな。』と思います。ですが、お母さんにたいしての気持ちが一つの出来事によって変わりました。

私は夏休みに、東京デイズニールゾートへ一泊二日でお母さんと行きました。一日目はデイズニールシーへ行きました。この日は、くもりだけども暑かったので、熱中症にならないように、気をつけていました。やっとデイズニールシーに入るゲートの前に来た時、私たちの横で、女の子の泣き声が聞こえました。お母さんはすぐかけつけて、

「ナースはいますかー!!」

と大声でさげびました。私は何事だ!?と思い私も行ってみたら、女の子と男の子づれのお母さんがたおれそうになっていたところを、私のお母さんが横にしているのが見えました。その子ども二人をつれているお母さんの後ろにいた、カップルの人達の女の子が、

「スタッフをよんでますすー!」

と行って、よびに行ってくれました。周りの人は助けてくれませんでした。ですが、お母さんが、持ってきたせんすであおいでいたので、私も自分で持ってきたせんすであおぎました。カップルの男の人もなにかであおいでくれました。とてもつらそうなお母さんを二人つれたお母さんにお母さんは、

「だいじょうぶですよ。スタッフの人が、来てくれますからねー。」

と、声をかけてあげていました。私も、泣いている女の子に、「せつない、だいじょうぶだよ!!」

と、はげました。そして数分たった時、カップルの女の子と、デイズニールゾートのスタッフさんが来てくれました。お母さんは、子どもを二人つれているお母さんのじょうたいをスタッフさんに、言っていました。スタッフさんが、

「もうだいじょうぶです。」
といったので、私達は、ゲートを通して、デイズニールシーへ行きました。

そのあと、お母さんに、「よく助けられたね。」

と聞いたら、お母さんは、「私は、介護士だし、それに、仕事ではさつきみたいな事がよくあるんだよ。」

と、言いました。私は、そんな仕事をしていたら、当然つかれるし、ゴロゴロしていたくなるな。と思いました。それに、あんな急だったのに、すぐかけつけて、助けたお母さんはかっこいいし、自まんのお母さんだと思いました。こうやって私のために働いてくれているので、感しゃの気持ちでいっぱいになりました。